建労いわて月刊号

発　行　所
岩手県建設労働組合連合会
教　宣　部
盛岡市本宮一丁目７番２７号
電　話　０１９－６３１－３２８０
ＦＡＸ　０１９－６３５－４０１５
発 行 者　藤 井 泰 男

４月末組織人数 5,070人

４月で行った拡大行動を
今後も継続しましょう。

子供達で賑わう

テレビ岩手45周年事業　わん博2015

設計図は頭の中
（写真上）
完成した作品がこちら
（写真左）

テレビ岩手45周年事業（わん博２０１５）に岩手県連が県連６名、盛岡４名、八幡平１名の11名。22日は県連６名、盛岡４名、八幡平２名の12名でした。

3月21日（土）～22日（日）の2日間、滝沢市のアピオ（岩手産業文化センター）において行われた、

来場者数は、1日目が３００５人。２日目が６５３１人で、２日間合わせて９５３６人と当初予定数の半分程度と、少し残念な結果となりました。

しかし、ブースではコッパトイ、カンナ削り体験、巣箱づくりが行われ、２日目にはミニ上棟式（お菓子５００個をまく）も実施し、事前の告知が無い状況でしたがお客さんで賑わいました。

巣箱づくりでは、初日12個、２日目21個と結構な賑わいでした。カンナ削り体験には、岩手のご当地ヒーロー「ガンライザー」が挑戦するなど盛り上がりをみせましたが、１番人気はコッパトイで、次から次へと子供たちが集まり個性あふれる作品を作っていました。

２日目のメインでもあるミニ上棟式で、本来はお餅をまく予定でしたが、主催者側がフィナーレでお餅をまくという事によりお菓子へ変更になりました。

ヒーローの実力はいかがなものか

ミニ上棟式に参加した子供たちは、安全対策のヘルメットをしっかりとかぶり、見事な仕事ぶりで棟上げを完成させました。

その後お菓子まきをしましたが、数が５００個と限られていたこともあり、あっという間に終了となってしまい子供たちには物足りなさが残ったように見えました。

今回、初めてこの様なイベントに参加しましたが、こういった行事は何回か参加していく事で、世間一般にも知られていくと思いました。

これから行われる行事等にも継続的な参加が必要ではないでしょうか。

【盛岡　藤原記】

組合加入者と協議

今後の労働力支援の対応について

４月15日、岩手型復興住宅の需要が高まる機運を受けて、岩手県から岩手型復興住宅マッチングサポート制度への協力要請に関する意見交換会を、盛岡市立総合プール研修室で行いました。

地域型復興住宅生産者グループに加盟し、組合に関連する登録事業者28社のうち５社と県連三役５名合わせて14名の出席でした。

県連会長挨拶後、自己紹介を行い、全建総連から清水書記次長の挨拶と情勢報告を受け、同じく森総務部長から説明を受けました。

意見交換では、実際にこの制度を使う場合、職人に対する条件や支払う賃金についてどうするかを話し合いました。

その後、２万円位を目途とする方向性がでましたが、詳細については岩手県、国交省との協議の後に話し合いを持たなければならないということになりました。

４月23日には全建総連の代表と、国土交通省が話し合いを行いました。

感想として、支払う金額を固定するよりも、公共工事設計労務単価の85％以上にする等賃金については、下限を決める等、宿泊場所やかかる経費についても考えなければならないと感じました。

森総務部長からは福島での応急仮設住宅における労働条件や労働協約についての説明がありました。

いずれ、今後の労働力支援として、労働者の紹介や案内（請負を想定する場合）と労働者供給事業を行う場合の課題について実際にマッチングサポート制度の依頼あった場合、組合員でない方からの依頼にも応じていかなければならない点や、県内、北東地協で対応しきれない場合、首都圏からの受け入れの方向性が見えてきました。

この意見交換を必要に応じて行うこと等を確認し、交換会を終了しました。

【県連　佐藤記】

きずな

４月は入学、進学、就職と自分の将来を決める時期でもある。

40年前の事であるが、青年部の主催で工務店へ弟子入りした若者と事業主を招待して「わんこそば」で、歓迎会を行ったことを思い出した。

坊主頭にあどけない顔でも食べることは一人前。多くの職人が育った時代であった。

東日本大震災の津波で、自宅を流失した大槌町、野田村の５人の若者が建築大工を目指して、岩手県立二戸高等技術専門校へ入校したことが新聞に掲載されていた。

長い仮設住宅から「『家は本当に大切』。住む人の要望に応えられる大工になることで『力』になりたい」と語っている。

今年度は19名が建築科に入学した。

多くの若者が建設業に目を向けて頂ける様、職人の待遇改善をしていく事を急がなければならない。

組合として今年度入学した若者たちと意見交流をしたいものだ。

また、マッチングサポートについても、必要に応じて、意見交換の場を設けて行きたいと思う。

【県連会長　齋藤徳重】